

国際原子力エネルギー協力フレームワーク（IFNEC） 第6回執行委員会会合結果について

平成27年11月5日
内閣府
原子力政策担当室

平成27年10月23日、IFNEC第6回執行委員会会合がシナイア（ルーマニア）にて開催されたところ、会合の概要以下のとおり。我が国より岡原子力委員会委員長他出席。前日には執行委員会会合の事前準備等を行うIFNEC運営グループ会合が開催された。

1. 開催日

平成27年10月23日（金） 於：シナイア国際会議場（シナイア）

2. 出席者

IFNEC参加国（正式メンバー国）20カ国、オブザーバー国6カ国、オブザーバー機関4機関（別添1）。

（1）主要国からの出席者

ルーマニア（ホスト国）：タータル原子力・放射性廃棄物庁長官
米：コーテック・エネルギー省（DOE）次官補代行
仏：イラク原子力・代替エネルギー庁（CEA）国際局副局長
露：クチノフ・ロスアトム長官顧問

（2）我が国からの主な出席者

岡 芳明 原子力委員会委員長
中西 宏典 内閣府大臣官房審議官（IFNEC運営グループ副議長）

3. 執行委員会会合の結果（概要）

冒頭、ルーマニアのタータル原子力・放射性廃棄物庁長官から歓迎の挨拶に続き、出席国及び国際機関によるステートメントが行われた。我が国からは岡原子力委員長より本年7月策定の「長期エネルギー需給見通し」の概要を含め代表挨拶を行った（別添2参照）。引き続き、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）マグウッド事務局長より「原子力エネルギーが直面する課題と期待」と題する基調講演が行われた。

運営グループ、ファイナンス特別会合、燃料供給サービスWG、基盤整備WGの活動状況と今後の活動方針等につき報告が行われた。特に、ファイナンス特別会合の報告においては、2016年開催予定の原子力ファイナンス会議の計画が説明されたが、各国より次回会合の焦点や世銀等の出席を促すための取組みを求める発言があった。我が国からは、原子力向けファイナンスの重要性を認めつつ、会合の成果物の明示化の必要性を喚起する発言をした。

また、IFNECの今後の方向性の議論においては、我が国より、IFNECの価値向上のためには活動計画の策定と活動の結果評価に参加各国の声を反映する仕組みを作るべきことを提案し、米国他の支持を得た。以上の議論を踏まえて、共同声明が採択された。

4. 共同声明の概要（別添4，5参照）

- 低廉で安定的なエネルギー源に対しての全世界のニーズは極めて高く、そのニーズに応えるために多数の国が原子力エネルギーを活用する乃至は新たに取り入れつつあることを確認した。加えて、原子力エネルギーが地球温暖化ガス排出削減に重要な役割を担っていることを認識し、本年の国連気候変動会議（COP21 会合）を含む排出削減努力に対しての支持を表明した。
- IFNEC 執行委員会は以下を採択した：
 - 原子力関連のファイナンスにとまなう課題に引き続き取り組むことに同意し、本課題を取り上げる原子力ファイナンス会議を 2016 年開催すべく準備を進めることを承認した。
 - 使用済み燃料、高レベル廃棄物の多国間貯蔵の研究を継続することを奨励し、燃料供給サービス WG が多国間貯蔵の概念書の作成に継続して取り組むことを支持する。
 - 気候変動の脅威に対する緩和策としての原子力エネルギーの役割と貢献について、基盤整備 WG が理解増進のための広報活動の重要性に注目することを奨励した。
 - IFNEC の従来の活動を体系的に見直し、優先順位、効率化、成果物の具現化のための提案を纏める。この見直しの過程には、IFNEC 参加国のニーズや優先事項の調査結果を反映させること。
 - 運営グループにて、年次の”ワークプラン“を作成する。本ワークプランの内容及び事務局費用を踏まえて、全ての IFNEC 参加国の拠出の考察を促す。

2016年の次回執行委員会会合はアルゼンチンが主催する方向で引き続き調整が行われることとなった。

5. 添付資料

- 別添1：第6回執行委員会会合出席国リスト
- 別添2：第6回執行委員会会合岡原子力委員会委員長代表挨拶（英文）
- 別添3：第6回執行委員会会合岡原子力委員会委員長代表挨拶（仮訳）
- 別添4：第6回執行委員会共同声明（英文）
- 別添5：第6回執行委員会共同声明（仮訳）

（了）

【参考1】運営グループ会合の結果概要

○開催日：平成27年10月22日(木)、於：シナイア国際会議場

○出席者：

米 国（議長）：マクギニス エネルギー省次官補代理

日 本（副議長）：中西 宏典 内閣府大臣官房審議官

フランス（副議長）：イラカン 原子力・代替エネルギー庁(CEA)国際局副局長

中 国（副議長）：欠席

○概要：

翌日に開催される執行委員会会合に向けた事前準備として開催。冒頭、マ議長に続き副議長として中西審議官より、国内の原発再稼働状況に触れつつ挨拶を行った。各WGの活動報告及び本年のファイナンス・セッションの結果報告等がなされた後、翌日の執行委員会において採択される共同声明の案文の確認が行われた。

【参考2】IFNEC加盟国

参加国：34カ国、オブザーバー国：31カ国、オブザーバー機関：4機関

(2015年10月27日時点)

Participant Countries	Observer Organizations	Observer Countries
1. Argentina	1. International Atomic Energy Agency (IAEA)	1. Algeria
2. Armenia	2. Generation IV International Forum (GIF)	2. Bangladesh
3. Australia	3. Euratom	3. Belgium
4. Bahrain	4. OECD-Nuclear Energy Agency (NEA)	4. Brazil
5. Bulgaria		5. Chile
6. Canada		6. Czech Republic
7. China		7. Egypt
8. Estonia		8. Finland
9. France		9. Georgia
10. Germany		10. Greece
11. Ghana		11. Indonesia
12. Hungary		12. Latvia
13. Italy		13. Malaysia
14. Japan		14. Mexico
15. Jordan		15. Moldova
16. Kazakhstan		16. Mongolia
17. Kenya		17. Nigeria
18. Republic of Korea		18. Philippines
19. Kuwait		19. Qatar
20. Lithuania		20. Saudi Arabia
21. Morocco		21. Singapore
22. Netherlands		22. Slovakia
23. Niger		23. South Africa
24. Oman		24. Spain
25. Poland		25. Sweden
26. Romania		26. Switzerland
27. Russia		27. Tanzania
28. Senegal		28. Tunisia
29. Sierra Leone		29. Turkey
30. Slovenia		30. Uganda
31. Ukraine		31. Vietnam
32. U.A.E.		
33. U.K.		
34. U.S.		
35.		

(了)